

イチゴ灰色かび病の防除判断ツールの開発

農業研究部

1. 研究の背景

イチゴ栽培において問題になっている灰色かび病に対し、湿度データに基づいた防除判断ツールを開発した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

イチゴ栽培圃場において、加温機からのダクト延長や連動させた湿度制御装置の稼働によって、灰色かび病の防除効果が確認できた。また、本病は、10日間の感染好適条件遭遇時間（15～25℃かつ相対湿度94%以上）が20時間を超えると発病し始めるため、予防剤から治療剤への切り替え時期に当たることや、40時間を超えると急激に進展することがわかった。そこで、同時間を元にリスクレベルを5段階に評価し、生産者が防除や湿度管理などの判断をサポートするツールを開発した。

※留意点

- ・手持ちの環境モニタリング機器のcsvファイルをweb上のツールに読み込ませて使用する。
- ・判断ツール使用は最寄りの振興局へ問い合わせること。

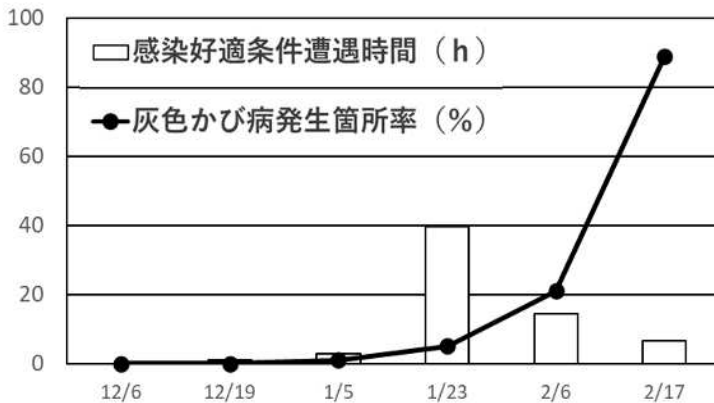


図1 感染好適条件遭遇時間と灰色かび病発生の推移 (湿度制御装置未稼働: 2022年)

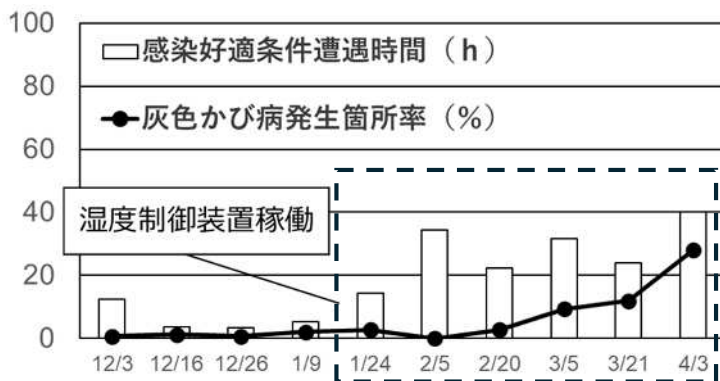
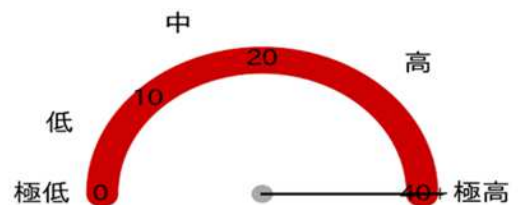


図2 感染好適条件遭遇時間と灰色かび病発生の推移 (湿度制御装置稼働: 2024年)

灰色かび病の発病リスク: 極高

過去10日間で条件を満たす時間数: 42時間

推奨対策: 今すぐに耕種的防除及び薬剤防除 (治療剤) の実施が必要です。



リスクレベル: 極高
42時間

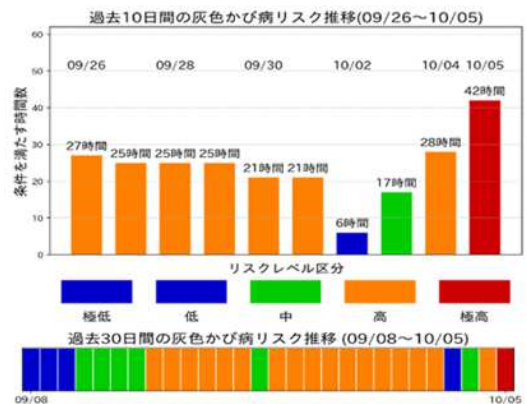


図3 灰色かび病リスク判断ツール

3. 期待される効果

イチゴ産地において、湿度管理による灰色かび病の発生を軽減でき、生産の安定化に寄与できる。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部
住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8

病害虫対策チーム
電話: 0974-28-2078